

【生薬名】 吳茱萸 *EVODIAE FRUCTUS*

【起源植物】 ゴシユユ *Evodia rutaecarpa*



【科名】 ミカン科Rutaceae

【別名】

【薬用部分】 成熟果実

【主成分】 アルカロイド、精油、脂肪油、苦味成分、

【薬性】 気味は辛苦大熱、小毒あり、帰経は肝胃脾腎に属す

【効能】 ●温中散寒・下気止痛

●疏肝燥脾・暖腎治疝、散寒止痛、降逆止嘔、助陽止瀉

●厥陰頭痛、寒疝腹痛、寒濕脚氣、経行腹痛(生理痛)

●腹脹痛、嘔吐吞酸、五更泄瀉(夜明けの下痢)

●吳茱萸湯は偏頭痛やシャックリに多用する

●吳茱萸の服用後は尿量が30%増加する

●虚寒による上腹部痛、腹痛、脇痛、疝痛に対する常用薬

●1日1.5～5g、多量にはしない方がよい

【出典】 ●吳茱萸 辛熱、能く疝気を調え、臍腹寒疼、酸水通して治す。(薬性歌)

●温中下気止痛. 欬逆寒熱. 除濕血痺. 逐風邪. 開湊理. 根. 殺三蟲.

(神農本草経中品)

【備考】 ●*Evodia officinaris*も起源植物

●

【処方例】 ●吳茱萸湯、当帰四逆加吳茱萸生姜湯、温経湯